

佳作

「カゴのすだち」

茨城県 古河市立西牛谷小学校一年 巻島 ころ

なつやすみ、とてもきちょうなたいけんをしました。

ハがつ一日、にわのきのヒヨドリのすを、ねこがこうげきしていました。すは、きからおちてしまひ、すのなかにいたひな三羽が、しばのうえでピーピーないていました。それをみていたおやどりたちは、なきながらちかくをとんでいましたが、どうすることもできそうにありませんでした。

わたしたちは、いそいでとりカゴをかいにいき、ひなをカゴにうつしてあげました。ケガもしてなくて、あんしんしました。カゴのなかなら、ねこやカラスからはまもられますが、おやどりがエサやりをできるかが、しんぱいでした。けれど、おなかをすかせたひながなくと、エサをくわえたおやどりがきてくれました。カゴのドアをあけてはなれると、なかにはいつてひなにエサをたべさせていました。

ぶどうみたくないなきのみや、ハネがとれたセミ、みどりのおおきいバッタをくわえて、いちにちになんども、なんども、ひなにあいにきました。ひにひに、ひなのハネものびていき、カゴのなかではばたくことがふえていきました。いつかすだつてしまうのが、すこしさみしくおもってしまいました。エサやりいがいにもおやどりがひなにあいにきているのを見て、はやくかぞくみんなとべるように、がんばれ！とおもっていました。

カゴにうつしてから十日め、エサをたべたひなが、カゴからでていくおやどりについて、いっしょにとびたちました。さいしょはでんせん、つぎにやね、どんどんたかくとおくに、かぞくみんなとんでいきました。こんなにまぢかに、やせいのとりのせいちようと、おやどりがひなのおせわをするところ、ひなのすだちを、みまもれることは、なかなかないことだとおもいます。やせいでいきていくことのために、いへんさもりました。

ぶじにすだちをみおくれでよかったです。どこかで、かぞくみんなで、げんきにすごしてほしいです。